

2022年1月11日

優れた資質を伸ばし、Society5.0時代に送り出す 東洋大学のDX人材育成キャリア支援プログラム

DX人材育成プログラムの1期生修了。 DX先端企業にビジネスプランのプレゼンテーションを 12月21日に実施

東洋大学（東京都文京区／学長 矢口悦子）は、DX人材育成のための新たなキャリア支援プログラム「東洋大学キャリアオナーズプログラム」を2021年5月から実施、その1期生によるビジネスプランプレゼンテーションを12月21日（金）に開催しました。

人材育成プログラム「東洋大学キャリアオナーズプログラム」は、データサイエンスを社会で活躍するための知識と紐づける20コマの独自講座を軸に、オンライン学習プラットフォーム「Udemy Business」のコンテンツを学習することで、キャリアリテラシー能力を高め、社会で求められる課題を解決するスキル、およびデジタル技術を活用して社会課題を解決する考え方を身に付けるプログラムです。受講する学生は1年生に限定。DX時代で活躍したい、データサイエンスの基礎知識を身に付けたい、起業したい、同目的の仲間と切磋琢磨したいなど、コロナ禍の状況を前向きにとらえて、将来の進路選択の一助にしたいと考えている学生が全キャンパス（文理問わず）から集まり、40名を選抜しました。

プログラムの最終は、チームによるビジネスプランの立案発表として、SDGs（持続可能な開発目標）の指定した3つ（下記参照）から希望する目標をテーマとして選び、6チームに分かれてプランニングに挑戦。審査員にDXの先端企業である、富士通Japan株式会社の方々を迎え、オンラインでプレゼンテーションを実施しました。審査員、講師、参加者のコメントは次ページの通りです。

なお、2022年も「東洋大学キャリアオナーズプログラム」は継続実施予定です。

ビジネスプランのテーマ：SDGsの3つの課題から希望するテーマを選び挑戦。

- SDGs 3 すべての人に健康と福祉を
高齢化社会が進み、病院や介護施設などで働き手が不足するなどの問題が想定される。病院や介護施設が直面する課題を仮設し、AIやICTの技術を用いて解決する手段を提案。
- SDGs 4 質の高い教育をみんなに
コロナ禍において学生同士が知り合い、お互いを高め合って共同学習する機会が少なくなっている。来年入学する学生を対象とし、入学時から学生同士のつながりをICTで創出する提案。
- SDGs 8 働きがいも経済成長も
各企業が働き方改革を推進する中、テレワークの更なる促進など多様な働き方が増えると想定される。その中で新入社員が仕事で分からないことに直面した場合、先輩に気軽に聞ける環境がなく、苦労しているという声も聞かれるため、そういった課題をICTで解決し、働きやすい仕組みを提案。

【審査員】

富士通Japan株式会社

東京エリア本部 東京第五統括ビジネス部 第一ビジネス部 中川皓貴氏

本プログラムに最終プレゼンまで数回オンラインで参加し、1年生の選抜メンバーによる卓越した提案内容に、私も東洋大学のOBとして良い刺激をいただきました。学生の皆さんがビジョンの実現に向けて白熱した議論を繰り返す様子や、聞き手の共感を得られるように、データを用いて各プランの優位性や成長性、実現性を熱心に説明する姿はとても印象的でした。今後学生生活を通じてさらに成長され、DX人材として社会で活躍されることを期待しています。

【講師】

株式会社ベネッセ-キャリア 講師 川井雅大氏

本講座では「企業の実課題の解決プランを練り上げる」ことに取り組んできました。本講座が目指したのは「社会人の新規事業チームと同レベルで取り組む」ということです。学生チームが陥りがちな、市場分析が曖昧になる、アイデア頼みでユニークネスが磨かれな、といった点を徹底的に自学と講座でカバーしていきました。

オンライン学習のサブスクリプションサービスUdemy Businessを活用することで、

- ・知識は自分で身に着ける
- ・知識活用の勘所を講義で身に着ける
- ・講義の大半はディスカッションとする

これらの学びスタイルにより、自分たちなりの社会を見る目、ビジネスへの造詣を深め合うことに注力することができました。

提案を練り上げる過程では、チームビルディング、リーダーシップ発揮のあり方についてもがき苦しむ姿も見られました。誰もが初めて取り組むレベル感の課題であり、知識や経験でリードすることはできません。どれだけ自分事として取り組み、行動でチームをリードしていけるかが問われた半年であったろうと思います。学習者としての立場のみならず、疑似的ながら実践者としての立場を経験した学生は、今後の学生生活各シーンで周囲に影響力を発揮してくれるものと信じています。

【受講者】

情報連携学部 情報連携学科 1年(男)

一番成長した点は、「考える視点が圧倒的に増えたこと」だ。経営者のビジネス視点、デザイン思考、ユーザエクスペリエンスの視点などを学ぶことで、最適解を考えることができるようになった。また、他学部学生と連携して課題解決に取り組むことで自分の価値観がいかに偏っているかを知ることができた。社会の現状や技術を知りながら課題解決に全力で取り組むことによって自らをアップデートし続けること、学ぶことの楽しさを再認識することで、学問への積極性が高まったことも成長だったと感じている。

【受講者】**情報連携学部 情報連携学科 1年(女)**

“なぜ”や“どうやって”などの疑問詞で課題をどんどん深掘りすることで、課題の本当のニーズに気付くことができることを学んだ。講座の後半では、自分が考えるリーダーシップを実践し、働きかけ力や思考力、コミュニケーション力をスキルアップすることができた。また、自分の意見を相手に伝える難しさや、そのアイデアは本当に必要か、消費者は本当に欲しいと思っているのかなど、消費者視点で考えること、ターゲティングの重要性を学ぶことで、より現実的な視点で物事を考える力が身についた。

【受講者】**社会学部 メディアコミュニケーション学科 1年(女)**

グループワークが中心だったので、沢山の意見交換を行う中で、自分で気付くことが出来なかった視点や考え方など、新しい発見ができた。また、Udemy Businessを利用して課題に対する考察を行うことで、効率の良い課題解決案が沢山浮かぶようになり、そこからディスカッションを通してより良い解決策を見つけることができた。また、常に社会の変化に目を向けて情報収集する大切さを学んだ。この講座を通して、グループワークの苦手意識が、楽しいと思えるように変化したことが大きな成長だと感じた。

【受講者】**経営学部 経営学科 1年(男)**

この講座を通して最も成長できたことは、挑戦に対する怖さが減ったことだ。当初はプログラムに応募するかどうか迷っていたが、実際に始めてみると グループディスカッションや社会人へのインタビュー、ビジネスプランを考えるなど初めてのことを多く経験し、これを通して挑戦への怖さが軽減した。正解がないビジネスアイデアを生むためには、Udemy Businessなど良質でホットな情報をインプットする重要性を学んだ。今では積極的に他のプログラムにも挑戦するようになった。

本プログラムの担当者、受講学生等へのご取材が可能です。
ご希望の方は下記までお問い合わせください。

【本件に関するお問い合わせ先】

東洋大学PR事務局（株式会社電通PRC内） MAIL： toyo@group.dentsuprc.co.jp